

第4次南小国町総合計画

令和6年度（2024年度）

主要な取組のご紹介

「主要な取組のご紹介」について

南小国町では、第4次南小国町総合計画の取組に沿って各種事業を実施していますが、具体的な取組については、なかなかお知りいただく機会がないものと思います。

そこで、今回、共有ビジョンごとの取組について、主要なものをご紹介します。

町がどのような分野で、どのような取組を行っているのか、是非ご覧ください。



目 次



【き】 築いてきた美しい里山の景観、伝統文化、生業を次世代に引き継いでいく里

： P 2 ～

【よ】 寄り添い支え合い、人と人のつながりを大切にし、一人一人が誇りを持ち、多様な生き方を尊重しあえる里

： P 6 ～

【ら】 ライフラインを充実させ、地域全体で協力し、だれもが笑顔で安心して過ごせる里

： P 7 ～

【の】 のびのびと学べる環境の中で、すべての人が夢に向かって挑戦できる里

： P 11 ～

【さ】 再生可能エネルギーを地域資源から生み出し、有効活用し、未来につながる豊かな暮らしを実現する里

： P 14 ～

【と】 共に連携し、世界とつながり、世界に誇れる幸福な暮らしができる里

： P 16 ～

【き】築いてきた美しい里山の景観、伝統文化、生業を次世代に引き継いでいく里
〈施策（１）、施策（２）、施策（３）〉

〈関連SDGs〉



【まちづくり課】

・日本で最も美しい村に関する取組の推進

南小国町は、失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観・文化を守りつつ、最も美しい村としての自立を目指す「日本で最も美しい村連合」に加盟しており、2005年の発足メンバーの1つになります。

「最も美しい村づくり」を推進するため、町独自の取組として「日本で最も美しい村補助金」を実施しており、町民による日本で最も美しい村づくりにつながる活動を支援しています。



NPO 法人による放置
竹林等の整備事業

《令和6年度の実績や課題など》

街並景観形成1件、自然環境保全活動2件に対して補助を実施しました。

・南小国町観光協会と連携した町PRの取組

新規観光客の獲得及びリピーターの創出を行っていくとともに、滞在時間、観光消費を増大させていくため、地域資源を活用した新たな需要の取り込み強化及びソフト・ハード両面での受け入れ環境の整備推進を南小国町観光協会と連携して取り組んでいます。



南小国町観光協会

《令和6年度の実績や課題》

南小国町観光協会と協力し、黒川温泉の露天風呂の混雑状況を確認できるピープルカウンターの設置や観光PR・マナー啓発の動画を映すデジタルサイネージの設置など、受け入れ環境の整備を中心とした事業を行いました。

【農林課】

・中山間地域等を支援する取組

農業生産活動の不利な中山間地にて農用地の維持・管理を行う集落等に対し、「中山間地域等直接支払制度交付金」を交付しています。

主に水路、農道の維持管理や鳥獣害対策に係る費用、農用地の管理費用等に活用しています。

《令和6年度の実績や課題など》

本町では令和2年度から65協定の集落協定や牧野組合等が活動しています。令和7年度には協定の見直しがあるため、各協定の課題の対策支援を行いながら、地域の農業生産の維持・発展や地域の活性化のため、今後も本制度の活用を進めていきます。



集落協定の草切活動



目標地図の作成に向けた協議

・地域計画の策定

農業者や地域のみなさんの話し合いにより将来の農地利用の姿を明確化した目標地図を作成し、概ね10年後、誰がどのように農地を使って農業を進めていくのかをまとめたものが地域計画です。

《令和6年度の実績や課題など》

南小国町では、中山間集落ごとに協議を進め、令和7年3月に地域計画を策定・公表しました。今後は、理想的な農地利用の実現に向け、地域での話し合いを継続しながら、地域計画の定期的な見直しに取り組んでいきます。

・今後の農業を考える協議会の実施

南小国町の農業振興について、今後目指すべき方向性や課題等の解消に向けた話し合いの場として、「南小国町今後の農業を考える協議会」を設置し、農業者を主体に町議員や農業委員、外部有識者などの会員と、協議を行ってきました。協議に基づき開始した農業担い手支援事業は、毎年見直しを行いながら事業を継続しており、毎年3～5名の担い手への補助を行っています。



ワークショップによる検討会

《令和6年度の実績や課題など》

令和元年度より、農業公社の設置や担い手への補助の拡充、基盤整備の必要性などについて協議を行ってきました。令和7年3月に協議事項を取りまとめ、町の方向性や新たな事業について説明を行い、来年度より事業を実施することとしています。

・ 林業を支援するための取組

南小国町で林業を行う方の事業支援や担い手育成を目的として「林業機械導入事業補助金」にて、チェーンソーやその他林内作業に用いる機械、または作業の安全を確保するための装具などを購入した際に、これらの経費に対して補助を行っています。



林内作業用機械

《令和6年度の実績や課題など》

令和4年度より補助事業を活用できるよう補助率や補助上限額を引き上げ、令和6年度はチェーンソー12件、林業機械5件、安全装備品2件の補助を行いました。

【よ】 寄り添い支え合い、人と人のつながりを大切にし、一人一人が誇りを持ち、多様な生き方を尊重しあえる里〈施策（10）、施策（11）〉

〈関連SDGs〉



【福祉課】

・結婚・妊娠・出産・子育ての希望を叶える取組

南小国町では、核家族化や地域のつながりの希薄化、家庭や地域の「子育て力・教育力」の低下等が課題となっている中、安心して子育てができるよう次の支援策に取り組んでいます。

- ①乳幼児の保護者どうしの情報交換の場の提供
- ②児童の放課後の居場所の確保



子育て支援ひろば めくもり
20周年記念イベント
「赤ちゃんハイハイレース」

《令和6年度の実績や課題など》

①毎週火曜日から木曜日の週3回、地域福祉センターりんどう荘内で「子育て支援ひろば めくもり」を開催し、親子でのふれあい遊びなどを楽しんでいます。

令和6年度は、めくもり発足20周年を記念したイベントを開催し、赤ちゃんハイハイレースやリトミック遊びなど新たな取り組みを行いました。今後は、このような場が苦手で孤立しがちな親子等も参加しやすい工夫を検討していきます。

②児童の放課後の居場所として、教育委員会所管事業の放課後子ども教室を実施しており、市原小学校と中原小学校の2拠点で週4日教室を開催しています。

・自立支援、健康づくりの推進と生涯現役社会の実現

南小国町では、高齢者の自立支援や要介護状態になることの予防、悪化防止に向け、介護予防をはじめとする高齢者の健康づくりと、それにつながる地域住民の交流機会としての「通いの場」づくりに取り組んでいます。



元気アップ教室

《令和6年度の実績や課題》

70歳年齢到達者に対し、郵送によるフレイル健診を実施し、対象者に電話による生活改善の支援を行いました。町民の健康づくりに対する意識の高まりや職員による個別勧奨もあり、町が実施する介護予防教室の参加者は増えています。今後は教室を卒業した人に対し、継続した地域の通いの場への移行支援や、閉じこもり防止対策が課題となっています。

【ら】ライフラインを充実させ、地域全体で協力し、だれもが笑顔で安心して過ごせる里〈施策（12）、施策（13）、施策（14）、施策（15）、施策（16）、施策（17）〉〈関連SDGs〉



【総務課】

・防災、減災体制の強化

災害からの町民の生命財産を守るため、町防災計画や国土強靱化計画など、町の防災対応の基本となるべき重要計画の点検、修正を行っています。

また、町全体での防災訓練など、地区防災の中心となるべき自主防災組織の活動活発化を図っています。

《令和6年度の実績や課題など》

- ・「南小国町地域防災計画」を修正しました。
- ・「南小国町国土強靱化計画」を点検しました。
- ・「総合防災マップ」を更新しました。
- ・きよらチャンネルで防災士による「防災講話」を開始しました。

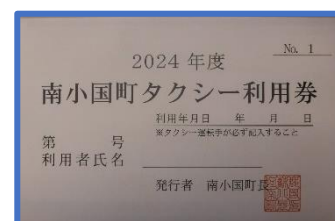


改訂した総合防災マップ

【まちづくり課】

・交通弱者対策の取組①（タクシー利用券の交付）

南小国町では、乗用車の運転免許を持っていない方で「65歳以上の方」または「障害者手帳を持っている方及び介護保険認定者」を対象に、生活に不可欠な買物・通院等のための移動手段を確保するため、対象地域内（南小国町及び小国町大字宮原地内）の移動で小国郷内のタクシーを利用する際に利用可能な「南小国町タクシー利用券」を年間最大 50 枚（申請時期により配布枚数減）交付しております。



南小国町タクシー利用券

《令和6年度の実績や課題など》

307 名の方に交付を行い、延べ約 1 万人の方に助成事業を利用いただきました。

また、利用者アンケートによる満足度調査では、9 割を超える方から満足と回答をいただいております。



小国郷中心市街地バス「にじバス」

・交通弱者対策の取組②（買い物バスの運行）

南小国町では、小国町との合同事業として平日の買い物や通院などにご利用いただける、両町の中心市街地を走る公共交通（コミュニティバス）、小国郷中心市街地バス「にじバス」を運行しております。

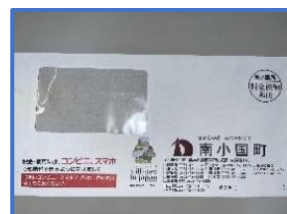
《令和6年度の実績や課題など》

令和6年10月から、利用者の乗降時の利便性を高める目的で、「フレイン」バス停を店舗前へ移設いたしました。

運行は平日のみで、年間の利用者数が2,451人、月平均は約204人となっています。今後も、運行内容の見直しや利用促進の取組みを進めてまいります。

・コンビニ収納システムの導入

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、来庁時の接触機会の減少を目的に、各種税・使用料等のコンビニでの納付書払いを開始しました。併せて、PayPay等のキャッシュレス決済も可能となりました。コンビニ支払いが可能となったことで、来庁する時間が取れない人でも納付書での支払いがしやすくなり、利便性が向上しました。



コンビニでの支払いも可能となった旨の記載がある封筒

《令和6年度の実績や課題など》

コンビニ支払いによる各種税・使用料の納付が全部で約7,000件ありました。

【町民課・税務課】

・コンビニ交付サービスの導入

令和4年9月よりマイナンバーカードを利用して住民票の写しや印鑑登録証明書、所得証明書が全国のコンビニエンスストアで取得できるようになりました。

利用可能時間は、午前6時30分から午後11時までで、土日祝日も利用可能です。仕事帰りや休日にも利用できますので大変便利です。



コンビニでの証明書発行

《令和6年度の実績や課題など》

住民票の写し 280件、印鑑登録証明書144件、所得（課税）証明書21件、所得証明書22件の交付がありました。

【福祉課】

・医療・介護・福祉の連携による包括的なケアの推進

小国郷においては、地域内の医療機関、歯科医、薬局、介護施設及び行政等の多職種が連携して、小国郷医療福祉あんしんネットワークを組織し、認知症カフェの運営、情報の共有、在宅医療の充実等に取り組んでいます。

《令和6年度の実績》

健康の維持や増進など、生きていく力を引き上げていくことを目的として、11月に住民参加型の小国郷住民フォーラムを開催し、こどもから高齢者まで参加できる年代別の健康チェックや認知症のVR疑似体験、福祉用具体験などを行いました。その他、災害時の支援方法や看取りを含めた在宅末期治療に関する勉強会を行い、地域で支援する体制の構築に努めました。



小国郷住民フォーラム

【建設課】

・町道改良工事の推進

主要事業として、災害時の避難ルート確保・交通の安全・利便性の確保のため、町道中湯田赤迫線（瓜上矢田原線）の古賀から矢田原集落間の改良（拡幅・一部バイパス）工事を国庫補助事業（社会資本整備総合交付金）にて取り組んでいます。



工事しゅん工（瓜上矢田原線）

《令和6年度の実績や課題など》

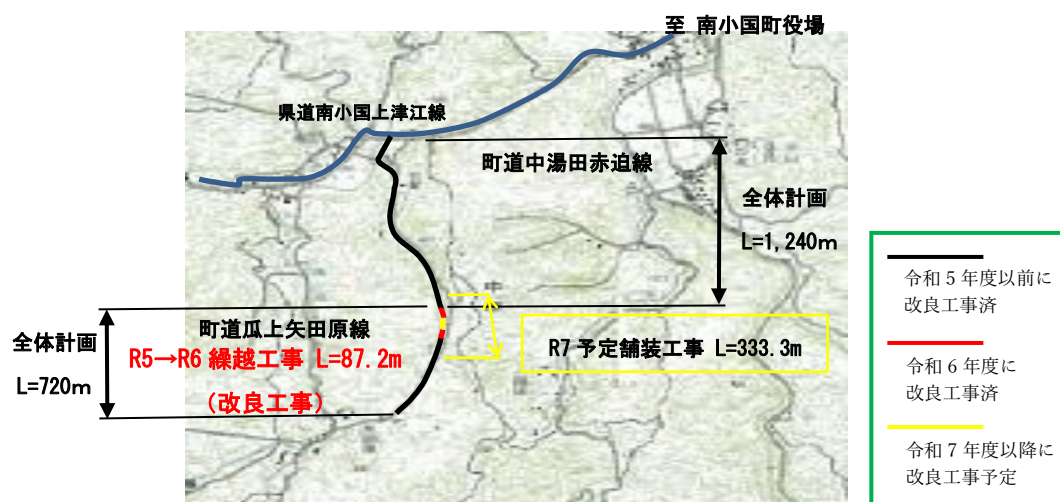
○町道中湯田赤迫線

全体計画 1,240mのうち、令和5年度までに 66.5mの改良工事を実施。
令和7年度に未施工の舗装工事 80mを実施し整備完了予定。

○町道瓜上矢田原線

全体計画 720mのうち、令和6年度に 87.2mの改良工事を実施。
令和7年度に残る 69.5mの改良工事と未施工の舗装工事 253.3mを実施し整備完了予定。

○令和6年度の完了を目指して整備を進めていましたが、国庫補助金の配分の関係等により令和7年度の完了予定となっています。



その他の町道改良工事については、令和7年度に「町道星和八本松線・町道小原仁連線・町道中杉田鳥越線」を計画しています。

【の】のびのびと学べる環境の中で、すべての人が夢に向かって挑戦できる里
 〈施策（４）、施策（５）〉

〈関連SDGs〉



【教育委員会】

南小国町では、子どもたち一人ひとりがチャレンジする教育をとおして、南小国町の未来の創り手となるために必要な資質・能力である４つのC「コミュニケーション」「コラボレーション」「クリエイティビティ」「クリティカル・シンキング」を重点的に育成していこうと考えています。

その育成の場にキャリア教育の視点を踏まえた南小国町独自の学習として「きよら学」を推進し、『地域』に目を向け、地域の方々と連携した次のような学習を進めています。

・まちインターン事業（４Cの全てを育成）

他者と協働し、新しい価値を創造する力・めげずにチャレンジする力が大人にも子供にも必要だ！という思いから始まった課題協働型インターンシップ。事業所の皆さんの仕事に対する思い、大事にしていることを取材し「事業所のファンを増やすことを目的に、事業所の方々とともに協働・チャレンジする取り組みです。



町内事業所でのインターンシップ

《令和６年度の実績や課題など》

- ・ 中学２年生２８名が１１事業所において、業務を体験。
- ・ 南小国町プレゼンテーション大会において、体験活動や事業所への提案、実際にチャレンジした内容等について発表。



農家の方とアイデア料理を製作

・農業体験民泊事業（４Cの全てを育成）

南小国町の基幹産業である農業を通じて地域の人と交流し、体感する中で考え、チャレンジする力、創造する力を育むための体験学習プログラムです。

民泊受け入れ農家に２泊３日滞在し、農業や食について学び、南小国の方々の農業に対する思いを共有し、農家の方と南小国の収穫物を活かしたアイデア料理を考案し、製作します。

《令和6年度の実績や課題など》

- ・ 中学1年生32名が8軒の農家にて農業体験。
- ・ 農業体験を行いながら、農家の方々と考えた料理を試作し、全校生及び学校関係者へ試食会を実施。
- ・ 南小国町プレゼンテーション大会において、体験活動を通じて学んだ町の課題や未来への提案を発表。

・ 集団活動事業（コミュニケーション・コラボレーションを育成）

子どもたちに生きる力を育むために、自然や社会の現実に触れる体験が必要であると考えます。

そこで、南小国町の里山を見て、体験し、そのすばらしさを味わうことを目的とし『里山自然体験活動事業』に取り組んでいます。南小国町の里山のすばらしさを肌で感じ、自然の中での貴重な体験を通して、南小国町を誇りに思える児童を育成していく事業です。



こんべい村でのアウトドアクッキング体験

《令和6年度の実績や課題など》

町内の小学4年生31名を対象に活動を実施。

吉原こんべい村での地域体験五感ゲームやアウトドアクッキング、立岩地区での水源沢登りを実施。

【まちづくり課】

・ 地域おこし協力隊の活躍

地域外の人材を招聘し、地域ブランドや地域製品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、地域への定住・定着を図るため、平成26年度から行政型の「地域おこし協力隊」を導入しました。

令和2年度からは、自身の起こす事業を磨き、地域とつながりながら発展させていくことを目的とする「起業型地域おこし協力隊」を導入しており、現在まで様々な活動を行っています。



起業型地域おこし協力隊員

《令和6年度の実績や課題など》

令和6年度は5名の起業型地域おこし協力隊員が町内において様々な活動を行いました。なお、協力隊員の活動の様子は不定期にみなみチャンネルにて放映しています。

また、令和7年4月からは新たに2名を起業型として委嘱しており、町内事業所の新分野進出・事業拡大に向けて活動いただいています。



空き家を活用した
ゲストハウスの開業

・町民の新たなチャレンジへの支援

南小国町では、町民や、町内に移住されてくる方が主体となり行う、起業や地域活性化を目的とした様々な分野の活動に対し、町独自の「夢チャレンジ推進事業補助金」を実施しています。個人による飲食店や美容室、カフェなどの開業や農家民泊を始めるための許可関係を取得など個人の「夢」の実現に向けた挑戦を支援しています。

《令和6年度の実績や課題》

3件の申請があり、全ての事業が年度内に完了しています。

・町内事業者の働き手不足の解消及び短時間でも働ける仕事の確保に関する取組み

町内事業者の人材不足に対応するため、事業者の業務を見直し、短時間でも働ける仕事として切り分けるとともに、町内外の短時間であれば働ける人材を掘り起こし、地域の労働力の総量を増大させるための事業を、株式会社SMO南小国と連携して実施しています。



しごとコンビニ稼働

令和4年度からは、業務委託型短時間ワークシェアリング事業「しごとコンビニ®」を導入し、町内関係者向けの説明会やニーズ調査、町内でのトライアルを行い、本格的な導入を行っております。

《令和6年度の実績や課題など》

町内の広報誌等で周知を図り、事務局や地域拠点で登録者説明会を行いました。案件組成に関しては、事業者への訪問や稼働後の連絡を密にし、継続的な稼働に繋がりました。実績としては、累計登録者数128名、実施稼働回数約600回となりました。

また、令和7年度より小国郷地域において「しごとコンビニ」の運営で必要な稼働者登録に関する事務手続きを、小国郷地域内の郵便局で実施を行う予定としております。来年度も更に多くの案件組成、登録者を増やしていきます。

【さ】再生可能エネルギーを地域資源から生み出し、有効活用し、未来につながる豊かな暮らしを実現する里〈施策（18）、施策（19）、施策（20）〉

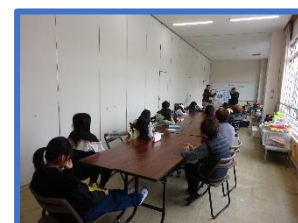
〈関連SDGs〉



【町民課】

・省エネルギーに関する取組

子どもデイサービス利用者を対象として、子供たちが取り組みやすいものの中から、ペットボトルのリサイクルに関するエコ教室を実施しました。



エコ教室の実施

《令和6年度の実績や課題》

本年度3月、省エネルギーの学びの入り口として、ペットボトルの水平リサイクルに関するエコ教室を実施しました。また、住民の方が省エネルギーやリサイクルにどのように貢献しているのか、広報誌を用いて周知を実施しました。

【まちづくり課】

・太陽光発電など再生可能エネルギー普及への取組

町内における再生可能エネルギーの導入及び自立分散型電源の確保を促進することを目的に、令和3年度から太陽光発電設備等導入促進事業補助金の交付を実施しています。

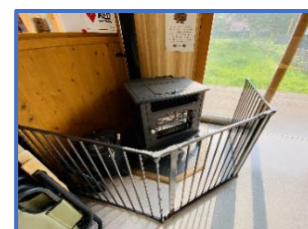
《令和6年度の実績や課題など》

太陽光発電設備等導入促進事業補助金では申請のあった1件に対して補助を実施しました。

【農林課】

・木質バイオマスの活用の推進

南小国町ではペレットストーブなどの木質バイオマスを推進し、二酸化炭素の排出を抑え、エネルギーの地産地消を目指すために、「ペレットストーブ等購入補助事業」により、木質ペレットストーブや薪ストーブを購入する際に、これらの経費に対して補助を行っています。



木質ペレットストーブ

《令和6年度の実績や課題など》

薪ストーブ2件の購入に対して補助を行いました。南小国町は令和6年2月に農林水産省が選定する「バイオマス産業都市」に認定されたことを受け、「南小国町バイオマス活用推進計画」を策定しました。これらの計画に基づき、今後も環境にやさしく災害に強いまちづくりを目指します。

【と】共に連携し、世界とつながり、世界に誇れる幸福な暮らしができる里
〈施策（６）、施策（７）、施策（８）、施策（９）〉

〈関連SDGs〉



【町民課】

・安心安全な暮らしを実現するための外部団体との協定締結

災害対応、地域活性化、子どもの健全な育成などを目的として、各種団体等と積極的な相互協定の締結を進めています。

《令和６年度の実績や課題など》

南小国町で排出された使用済みペットボトルを「ボトル to ボトルリサイクル」によって安定的にペットボトルとしてリサイクルすることにより、持続可能な循環型社会の実現に資することを目的としてサントリーホールディングス(株)と協定を締結しました。



「サントリーホールディングス(株)」との協定締結式

【まちづくり課】

・企業版ふるさと納税に係る取組みの推進

南小国町における地方創生の取組みを加速化させるため、企業版ふるさと納税の寄附額増加に向けて、企業への営業活動などの取組みを推進しました。

《令和６年度の実績や課題など》

企業版ふるさと納税による寄附件数 ３件（R4）→１５件（R6）

【まちづくり課】

・移住定住に係る取組みの推進

少子高齢化による人口減少や、担い手不足を解消していくために、南小国町に移住してくる方を増やしていく取組みや、町内にある空き家を、町外から移住される方への住居としてマッチングさせる「空き家バンク」の運用、移住定住コーディネーターによる移住前後での相談体制の構築を進めています。また、令和６年度から移住希望者等に提供する住居として、「暮らし体験住宅」、「空き家活用住宅」の運用を開始しました。



令和６年度に整備した「空き家活用住宅」

《令和６年度の実績や課題》

空き家バンク（移住）相談件数 59 件、空き家バンク新規登録件数 13 件
移住相談や空き家バンクへの問い合わせの件数に対して、住居として紹介できる物

件数が少ないため、物件の掘り起こしが課題としてあります。

また、町が空き家を改修し、移住者に貸し出す「空き家活用住宅」事業については、年度内に1件の改修工事が完了しました。

空き家は、月日が経つ毎に状況が劣化していきますので、早めに相談いただきたいです。



南小国町暮らし応援券

・地域経済の活性化等に向けた取組

南小国町内における町民の生活支援や経済循環を高めるための取組みとして、町内にお住いの方向けに商工会が発行するプレミアム付き商品券に係る取組みの支援を行いました。

《令和6年度の実績や課題など》

町内の商工会加盟店で利用できる「南小国町プレミアム付き商品券」の販売（商工会事業）を支援しました。

また、全町民に対し1万円分の「暮らし応援券」を配布するなど、長期化する物価高騰等の影響で打撃を受けている地域経済と町民の生活を支援しました。

・町外への情報発信や町体験事業等の実施

役場職員有志で構成する「南小国町広報・営業プロジェクトチーム」を中心に、株式会社SMO南小国と連携し、首都圏や関西圏を中心に町の知名度向上を図る取組みを推進しました。



東京でのイベントへの出展

また、同じくSMO南小国と連携し、南小国町に関心がある大学生などが町に滞在し、町内での仕事や暮らしを体験する「ワーキングバケーション」や、町内での起業を志す方を支援する「起業塾」を実施しています。

そのほか、南小国町観光協会と連携し、熊本市内や福岡市など、町外でのPR活動にも積極的に取り組んでいます。

《令和6年度の実績や課題など》

広報・営業プロジェクトチームにおいては、東京都や福岡市で開催されたイベントへの出展や東京都や大阪市などで開催された熊本県人会等へ出席し、町のPRを行いました。また、「ワーキングバケーション」に大学生5名、「起業塾」へは8名の参加があり、参加者のうち2名が起業型地域おこし協力隊員として令和7年度より活動することとなり、町への移住につながりました。

このほか、令和7年度に開催される大阪・関西万博に南小国町として出展することが決定し、国内をはじめ世界に本町の取組みを発信する機会を得ることができました。

【建設課】

・民間賃貸住宅確保プロジェクトの推進

移住定住の促進に係る取組みの一つとして、民間賃貸住宅の供給不足解消のため、住宅（２戸以上）を建設する個人及び法人（町内に住所を有する個人、町内に事業所を有する法人に限る）に対し、１戸あたり１００万円を上限として、建設費の一部を補助しています。



補助を受け建設された賃貸住宅

《令和６年度の実績や課題など》

申請が３件あり、合計戸数２２戸に対し補助を行いました。